

第3学年2組 社会科学学習指導案

第4校時 場所 3年2組教室 指導者 安倍 堅介

1 単元名 「お店をPR! 今日からあなたが子ども販売員!」

子どもたちやその家族が日常生活を送る上でスーパーマーケットの存在は欠かせない。スーパーマーケットに行けば、おかしはもちろん、新鮮な野菜などを買えることは当たり前のこととなっている。子どもたちは消費者としてスーパーマーケットに行った経験は多いと考えられる。しかし、お店がより多くの消費者を集めるために販売の仕事の工夫をしていることまでには目が向いていないと思われる。また、スーパーマーケット1つを事例に取り上げて学習を進めるだけでは、販売の仕事という大きな枠組みで捉えることは難しいと考える。

そこで本実践では「子ども販売員となってお店をPRするチラシを作ろう」という構想活動を通して、販売の仕事は消費者の願いと関連付けて行われていることに気付くことができるように学習を進める。また、スーパーマーケットの学習と合わせてコンビニエンスストアを取り上げることで、2つの社会的事象の比較を通して、販売の仕事について概念的に捉えられるようにする。

販売に携わる人々の思いなどを理解し表現することを通して、販売の仕事は利益だけを優先するのではなく、消費者の願いをもとに行われていることに気付き、身近な社会的事象を自分事として多角的に捉え、学びを生活につなげられる子どもを育てていきたい。

2 単元について

- (1) 本単元は、地域に見られる販売の仕事について消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え表現する活動を通して、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解することをねらいとしている。

本単元では、スーパーマーケットの子ども販売員としてお店の仕事の工夫をまとめ、家族に仕事の工夫をPRするチラシを作るという構想活動を単元の中心に据える。また、コンビニエンスストアの「仕事の工夫」にも話題を広げ、2つの社会的事象の比較を通して販売の仕事についての概念化を図る構成で進める。販売の仕事の工夫が消費者の多様な願いとどのように関連しているのか、家族に消費者としての思いを聞いたり、実際に見学に行き販売に携わる人々の思いに触れたりすることで、販売の仕事という社会的事象について多角的に捉えられる子どもが育まれるものと考え。

- (2) 子どもたちは、前単元までに自分たちの住むまちや市の様子について学習してきた。本単元での、販売の仕事について学習は、五年生での未来を支える食料生産への学習につながる。
- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数：36人)
- ① スーパーマーケットでどんな人が買い物をしているか尋ねたところ、「お父さん・お母さんなどの家族」と答えた児童が多数を占めていた。「高齢の方」「赤ちゃん連れの人」と答えた児童は7人であった。自分や家族以外の立場でスーパーマーケットの利用について捉えている児童は少数であることがうかがえる。
 - ② スーパーマーケットで働いている人はどんな仕事の工夫をしているか尋ねたところ、「セールなどの安売りの工夫」「陳列の工夫」に目を向けている児童がいた。「わからない」と答えた児童は15人いた。スーパーマーケット利用の生活経験はあるが、仕事の工夫にまでは目が向いていない児童が学級の約半数いることがうかがえる。

3 単元の目標

- (1) 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解している。
- (2) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することができる。
- (3) 販売の仕事の工夫について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や学んだことを自分の生活に生かそうとしている。

4 指導計画（14時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 ・ 2	1 スーパーマーケットの仕事に関心を持ち、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ スーパーマーケットの配置図を考慮することを通して、実際に見学して調べてみたいという思いを高める。 ○ 見学に向けての仕事の工夫を予想し、質問を考える中で、学ぶ目的を意識している子どもを取り上げ、自律的な学びを価値づける。 	<p>【主】 売り上げを高めるための工夫を考えた質問を考えている。 (ノート)</p>
3 ・ 12	2 「仕事の工夫」を伝えるためのチラシをつくる。 (1) 見学する。 ↓ (2) チラシをつくる。 (3) チラシを評価し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ スーパーマーケットの見学を行い、店員さんの話を聞き、仕事の工夫や困り事、思いをPRチラシに生かせるようにする。 ○ お客さんと呼び、売り上げを高める工夫に目を向けさせ主題「子ども販売員としてお店をPRしよう」を設定する。 ○ 並行して子どもたちが頻繁に利用するコンビニエンスストアを取り上げる ○ 仕事の工夫と消費者の願いが結びついた記事を取り上げ、よりよいチラシについての評価基準を見いだせるようにする。 ○ スーパーとコンビニの仕事の工夫を比較することを通して、相違点・共通点に気付けるようにする。(本時9/14) ○ 友達との記事の相互評価を通して、仕事の工夫を多角的に捉えたり、消費者の願いと関連付けて考えたりできるようにする。 	<p>【知】 販売の仕事の工夫を理解している。 (発言・チラシ)</p> <p>【思】 仕事の工夫と消費者の願いを関連付けてチラシに表現している。(チラシ・振り返り)</p> <p>【主】 相互評価で友達からの意見を自分のチラシに生かそうとしている。(チラシ・振り返り)</p>
13 ・ 14	3 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習をもとに自分事としてよりよい消費者としてのあり方を考えさせる。 ○ 単元の終末に問題を作成させ、教師が抽出して評価問題とすることで、単元の学びや働かせた見方・考え方を振り返らせ、次単元以降の学びに生かすことができるようにする。 	<p>【思】 スーパーマーケットの仕事の工夫と消費者の願いを関連付けた問題を作ることができる。(問題づくり)</p>

5 本時の学習

(1) 目標

スーパーマーケットとコンビニエンスストアの仕事を比較する活動を通して、販売の仕事は「消費者の願い」と「仕事の工夫」が関連して行われていることに気付き表現することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
10	1 前時までの学習を振り返り、本時の課題をつかみ、見通しを持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンビニだけの工夫があったよ。お客さんがお店に入ると、スーパーは買い物から始めるけれど、コンビニはあいさつから始まっていたよ。 ○ コンビニのホットスナックはお腹が空いている人がすぐ食べられて便利だったよ。 ○ 仕事の工夫で違うこと、同じことが同じ数あったよ。 ○ コンビニとスーパーはお客さんへの思いは同じなのかな。
20	2 2つの販売の仕事を比較し、相違点・共通点について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ セブンカフェがあるとすぐにおいしいコーヒーが飲めたね。ダイソーがあり、安く買いたい人が助かっていたね。 ○ スーパーには氷があって、肉などを買い物をした人が新鮮さの面で助かっていたね。他にも大きな看板があって、どこに何があるか分かりやすかったよ。 ○ お店の中の通路の広さが違って・・・スーパーでは、高齢の人が押すカートが十分に通れるようにしてあったよ。 ○ コンビニは24時間営業で帰りが遅い人も夜に買い物ができて便利だったね。 ○ それって、マックスバリュも一緒だったよね。コンビニとスーパーで同じところはないのかな。 ○ コンビニもスーパーも、買う人が選べるように同じ種類の商品は近くに並べられていたよ。 ○ スーパーとコンビニで「仕事の工夫」は違うところもあるけれど、買う人のためってことは似ているんじゃないかなと思うよ。
10	3 より良いチラシにするために個人やグループでチラシを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どちらのお店も工夫が同じ所、違う所があるけれど、お客さんの思いに応えていることは同じだと気づきました。どちらの工夫もお客さんのためになっているからです。 ○ コンビニの記事で、お客さんの思いに応えていることが記事になかったのが、新しく入れました。
5	4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンビニとスーパーはお客さんの思いに応えて「仕事の工夫」を工夫していたね。他のドラッグストアや、ショッピングモールなどのお店はどうなのかな。 ○ 次回ののびのびタイムでは、友達のチラシを「仕事の工夫」がお客さんの思いに応えているかに気をつけて評価したいと思います。



これまでスーパーとコンビニの仕事の工夫について気付いてきた子どもたち。本時では、2つの販売の仕事の比較を通して、販売の仕事は「仕事の工夫」と「消費者の願い」が関連付いていると社会的事象を広い視点から多角的に捉えなおす姿を提案します。

主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援（発問・指示、教材・教具、評価）

- スーパーとコンビニで仕事の工夫が異なることにふれている子どもの振り返りや記事を取り上げ、相違点に焦点化して考えられるようにする。その際、その仕事の工夫がどんな人にとって良い工夫なのか問い返すことで、消費者の立場も意識させる。
- 仕事の工夫が同じ・異なると両方の立場の子どもの意見や販売者側の思いに立ち止まり考えている子どもの意見を全体で取り上げることで、次のような課題を設定する。

コンビニとスーパーの仕事の工夫や思いはどのようなちがいがあろうか？

- グループで作成してきた2つのチラシを比べたり、友達の記事と比べたりすることで、共通の土台でスーパーとコンビニの仕事の工夫を比較話し合える環境を整える。子どもたちから出される仕事の工夫について問い返すことで、どのような視点で比較しているのか明らかにし、思考を整理して考えられるようにする。また、スーパー、コンビニそれぞれで「仕事の工夫」と「消費者の願い」の関連に気付いている児童を取り上げ、発表させる。その際、「消費者の願い」を高齢者、体の不自由な方、仕事帰りの人など様々な立場で多角的に考えられていることを価値づける。
- 相違点を出し合う中で、2つの「仕事の工夫」の共通点に目が向いている子どもの意見を取り上げ、「似ているところはないか」と問いかけることで、概念的な知識を獲得できるよう対話を促し、次の課題を設定する。

【教材・教具】

- 学びの足跡
- 評価基準の掲示
- 2つのチラシ（タブレット）
- 学習支援ソフト

コンビニとスーパーの仕事の工夫や思いはどのような共通点があろうか？

- 似ている「仕事の工夫」とその消費者の立場を意識させ発言させていくことで、「消費者の願い」に目を向けて、共通点に気付けるようにする。
- 話し合いを通して、相違点を考えることで販売の仕事は「仕事の工夫」と「消費者の願い」がつながって行われているという共通点を見出したことを共有したり、本単元で作成してきた評価基準に目を向けたりすることで、自分のチラシに共通点として書けていたのか記事やまとめ部分に立ち返らせる。
- 机間指導を通して、自分の記事に満足感を得ている子どもには、「仕事の工夫」と「消費者の願い」のつながりが見える記事になっているか問い直すことで、「仕事の工夫」に関してより詳しい記事が書けるようにする。記事を書くことに手が止まっている子どもには、共に評価基準の項目を確認し活動を進められるようにする。考えたことを表現することに困難を感じている子どもには、学習支援ソフトの音声入力を活用して自分の気持ちを表出しやすいようにする。
- 本時で捉えた販売の仕事に関する概念を確かめ、他のお店はどうなっているのか問いかけることで、学びを授業内で閉じることなく、授業外へ広げられるようにする
- 本時で改めて見出した評価基準を次時に行うのびのびタイムでの相互評価に生かせるように促す。

【評価】

販売の仕事は「消費者の願い」と「仕事の工夫」が関連して行われていることに気づき表現している。
(発言、チラシ、振り返り)

